



◆木曽馬（きそうま）

平成二十六年の干支である馬にちなみ「木曽馬」を紹介します。

木曽馬は長野県木曽地域（木曽郡）を中心に飼育されている日本在来種の馬で、本州では唯一の在来種です。

昭和三十年代頃まで農耕用や木材の運搬に活用されてきましたが、昭和四十年代以降、耕運機の普及等で木曽馬を飼う農家が減少し、木材の搬出も林業機械に代わり馬搬（ばはん）をする人もいなくなりました。



木曽馬

木曽郡木曽町開田高原では、昭和四十四年に木曽馬保存会が設立され、一時絶滅寸前であった「木曽馬」の飼育・保存に取り組み、現在では百六十頭程度まで増えています。

木曽郡木曽町開田高原にある「木曽馬の里・乗馬センター」には、約三千頭が飼育され、乗馬体験など観光客の人気を集めています。



木曽馬の放牧

最近では馬搬（ばはん）を復活させようとする試みが始まり、木曽馬が運んだ木材を使った木製品を作るなど、木材産地ならではの文化と木曽馬保存に対する関心を高め、地域活性化につなげたいと取り組んでいます。

アクセス方法

〔公共交通機関〕

J R 中央西線木曽福島駅より、おんたけ交通バスで約三〇分

〔自家用車〕

中央自動車道中津川 I C 〳 国道十九号線經由約一時間三〇分、長野自動車道塩尻 I C 〳 国道十九号線經由約五〇分

◆へぎ板

へぎ板は木の繊維を壊さず、削らずに手で割って、厚さ一ミリ以下まで薄くして作られる板です。年が経つにつれ艶がでています。

数百年生の天然木で目がつまんだものでないと、へぎ板を作ることはできません。木曽はヒノキが知られていますが、黒部（くろべ）別名ネズコ、サワラと粘り



へぎ板の製作の様子

のある良い木があり、これがへぎ板には一番の適材です。

この技術は、古くから茶室などの室内装飾に用いられてきた伝統的な技術ですが、機械の普及などもあり、今では木曽谷でへぎ板を作れるのは二人の職人となっていました。

木や竹を編んでゆく「網代細工（あじろざいく）」は各地に伝承されていますが、一本の丸太から「へぎ板」を作製し、細工によって天井や衝立等の完成品に至るまでの技術を持つ職人さんは、今や国内で長野県木曽郡上松町「小林へぎ板店」の小林鶴三さんのみとなりました。小林さんは長野庁の「日本 森の名手・名人」に認定されています。

アクセス方法

〔公共交通機関〕

J R 中央西線上松駅下車

〔自家用車〕

中央自動車道中津川 I C 〳 国道十九号線經由約一時間、長野自動車道塩尻 I C 〳 国道十九号線經由約五〇分



網代細工